



WHO Age-friendly City

『高齢者にやさしい都市』をどう測定・評価するか？

世界的な都市化と人口高齢化による、人々の健康や社会への影響は、国際保健の重要課題であるとして、WHOは近年注目している。本講義では、これらの人口学的傾向が、保健医療分野にどのような問題をもたらし、それに対してWHOがどのような取り組みを進めているかを紹介する。とくにAge-friendly Cityとその測定・評価方法の開発プロジェクトについて詳しく説明する。

日時

2014年1月7日 火
18:30 ~ 21:00 (18:00 開場)

会場

東京大学 (本郷キャンパス)
工学部14号館1階141教室



Megumi Kano 狩野恵美

WHO 健康開発総合研究センター
(WHO 神戸センター)
都市部の健康テクニカル・オフィサー

講演者略歴

東京生まれ。国際基督教大学教育学科卒業後、カリフォルニア大学ロサンゼルス校で公衆衛生学の修士号および博士号を取得。2006年より3年間、同大学の研究員として災害公衆衛生の研究に取り組む。2009年6月から現在まで、WHO健康開発総合研究センター (WHO神戸センター) のテクニカル・オフィサーを務めながら、都市保健、健康格差、人口高齢化など、国際保健の重要課題に関する政策研究、ガイドライン作成、WHO加盟国支援に携わる。

講義アウトライン

1. WHO の紹介
2. 国際保健課題としての都市化の問題
3. 国際保健課題としての人口高齢化の問題
4. <<都市化+人口高齢化>>への対応: Age-friendly Cityの取り組み
5. Age-friendly Cityの測定・評価方法の開発プロジェクト